

# 我が署の増収対策

神岡営林署 業務課 森林活用係長 木島伸悟

## 1 はじめに

伐採箇所減少に伴い、木材販売での収入確保対策には限界があり、林野・土地・副産物などからの創意工夫による収入確保対策を図る必要に迫られている。

こういった中、我が署において、今年も年度当初に全職員による特別増収対策会議を開催し、新規収入の拡大対策について検討を加え、遊休地の有効利用等による収入確保、土石等の円滑な販売方策、林野・土地の新規貸付の発掘等を通じ収入確保対策に取り組んだので、その結果について発表する。

## 2 収入確保対策

### (1) 浅井田土場敷の利活用

浅井田貯木土場敷34,410㎡は国道471号線沿いにあり地形上から上下に分かれている。(図-1) 上土場敷15,600㎡は、森林事務所、車庫等建物敷及び貯材敷として使用しているが、下土場敷18,810㎡は上土場敷より10mの段差があり利用されことなく長年に亘り遊休地となっている。

これの有効活用が図れないものか、収入確保に結びつけられないものか検討した。

#### ① 土場敷路盤地下部の土石販売

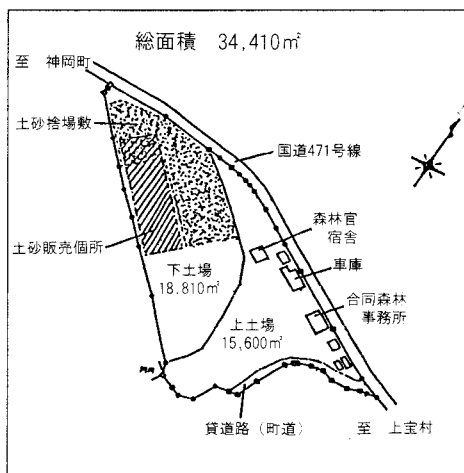
遊休地となっている下土場は、高原川河川敷と隣接していることから、土場敷の路盤地下部に川砂利があるのではないかと思いつき、調査したところ建設用骨材として十分通用する高品質の川砂利が大量に存在していることが判明し、地元採石業者に販売した。

今年度の販売結果は、5,670㎡、1,134千円であり、8年度も5,000㎡の販売を予定している。

#### ② 土場敷の貸付等による収入確保

川砂利採取後の遊休地等を貸付等により収入確保が出来ないかと検討したところ、公共団体において道路改良工事等の公共工事の残土処理場の確保が難しく困惑している現状にある

図-1 浅井田貯木土場概略図



ことが判明した。

そこで、土捨場としての利用を進めた結果、使用許可により収入確保に結び付けることができた。

もともと上土場と10mの段差があることから残土で上土場の高さまで埋め立てることにより、国道との段差がなくなることから土地の価値も上がることとなり、今後の土地利用の面から大いに有利になるところである。

今年度は、面積8,500㎡で354千円の使用料を得ることができた。なお、神岡町の試算によると今後、約13万㎡の残土が予想されており、引き続き土捨場の使用許可を拡大していきたい。

(2) 河川敷等の土砂販売

我が署において土砂販売ができないか検討したが、地形、地質等から適地は無いが国有林内の河川敷において砂防堰堤堆積砂敷地内に相当量の土砂が堆積していることから、これの販売ができないか検討した。

砂防堰堤は建設省が砂防指定地内に設置しているもので、採取可能な堰堤は7基あるが施設管理者は建設省であることから、採取方法、採取可能範囲等の問題点について度重なる協議の結果、土砂採取の基本的事項について協定書を締結し、土砂販売することができた。

具体的な堆積土石の採取に当たっては、協定書に基づきそれぞれの堰堤について、建設省立会により決定することとなるが、7基の堰堤の堆積土砂を計画的に販売することにより、安定した建設用骨材の供給と国有林野の収入確保が図られると確信している。(図-2. 3)

現在、穂高国有林 左保谷第2砂防ダムにおいて15,000㎡、約2,100千円相当の土砂販売を予定している。

図-2 砂防堰堤堆積土砂の販売フロー・チャート

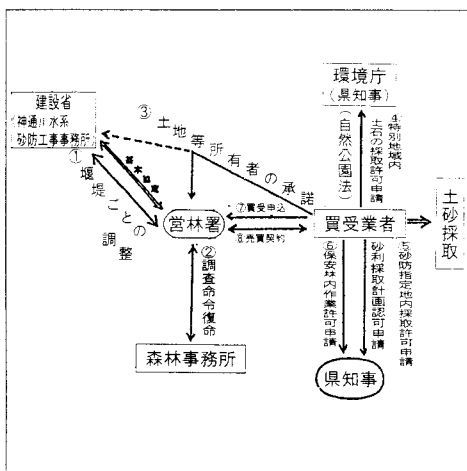
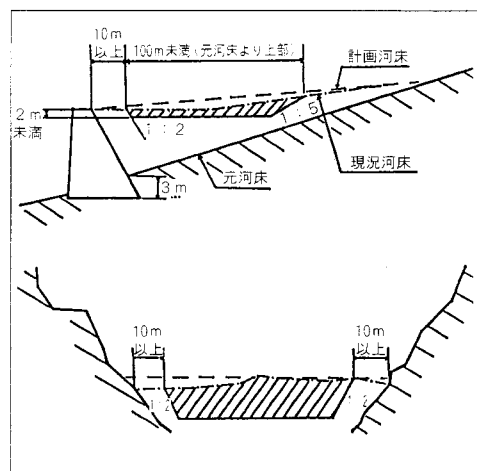


図-3 掘削可能範囲の目安



### (3) 森林空間利用林の立木販売

森林空間利用林の立木を伐採しないで収入に結びつけることができないか検討した。

穂高国有林は、国立公園第2種特別地域で、森林空間利用林に区分されているところであるが、国有林隣接地にホテルがあり、当該ホテルから修景林に利用したい旨の要請があった。

そこで、ホテルに対し景観林として将来に亘って伐採することなく、立木の保護義務及び適正管理を条件に、立木の販売と土地の使用料の支払いをしてもらうよう働きかけを行ったところ、理解と協力を得ることができ、穂高国有林内において材積20m<sup>3</sup>、販売額216千円、土地使用料 1,400m<sup>2</sup>、年間 28千円の収入に結びつけることができた。

### (4) 温泉資源の活用

管内に奥飛騨温泉郷があり、年間利用客は140万人程度あるといわれている。

地元上宝村も観光に力を入れており、温泉の湯量も豊富で奥飛騨温泉郷5地区で毎分3万リットルの湧出量を記録している。

しかし、平成9年度に安房トンネルの供用開始となれば、関東地方と約5時間で結ばれ、益々観光客も増加すると見込まれることから、湧出量も不足するのではないかと予想される場所である。

現在、穂高国有林内に数箇所の温泉源があり、この付近に地形、地質等が好条件で有望な箇所があることから、これの利活用ができないかと検討し、地元観光業者に対し積極的な働きかけをおこなった結果、温泉掘削敷の貸付契約をすることができた。

今年度は、掘削のための準備等で温泉そのものからの直接収入には結びつかないが、掘削後温泉による安定した副産物収入が得られる見込みである。

## 3 まとめ

以上新規収入の確保に当たって、創意工夫のもとで取り組んだ主なものについて発表しましたが、これらの取り組みは地域の発展等に大きく貢献し、高い評価を得ているところである。

神岡営林署の位置づけとして、木材の販売収入依存から脱却する工夫も今後おおいに検討するに値する事項だけに、この取り組みをステップとして一層の飛躍に向け、今後とも努力を惜しまない考えである。